

## 第8回 都市政策・地域経済ワークショップ II 20

11月20日（金曜日）18時30分～21時20分

Web zoomにて開催

「京都北部地域のモビリティ革命」について

講演者 寒竹聖一（WILLER TRAINS 株式会社代表取締役）

: 京都丹後鉄道-丹鉄が目指す MaaS とは、について下記の様に説明があった。

移動をサービスとして捉えて行くことを MaaS として総合力をもって展開していくとして考えて行く。

: WILLER グループについて説明があった。

WILLER 株式会社（グループ）は IT マーケティング企業であり運輸の世界で IOT により社会を世の中が望むもので社会を豊かにして行く会社である。

また、WILLER PIE LTD. (シンガポール)をプラットフォームにしてアプリを開発し台湾、ベトナム、シンガポールなど東南アジアで事業を拡大している。

これは東南アジアで MaaS を開発し、実験をし、実績を作り日本に逆輸入することにより全世界共通のサービスで安心、安全で快適なサービスを創造し新たなテクノロジーで「場所」と「移動」に変革を起こす為である。

最終目標は地方、都市の街の価値をあげ、社会そのものの価値を上げることである。

: MaaS について

MaaS のレベル定義について説明があり、ベルリンでは国の戦力として 公共交通サービスが統合されていると説明があった。

: 地域交通における MaaS の可能性について説明があった。

人口減少に伴って将来は乗合バス、地域鉄道、タクシー事業が赤字になり地方の交通機関が維持できない、一人で住む高齢者はマイカーがないと外出できないなどの問題をストレスなく外出できる環境づくりのため MaaS により解決できないかと考えている。

: MaaS に対する考え方—交通をサービスに変えることについて説明があった。

MaaS のカテゴリーは下記の2型がありそれぞれにまた2型あると説明があった。

地方型 MaaS データに基づいた MaaS を創造する。

都市型 MaaS 移動を効率化する。

観光 MaaS インバウンドを中心とする。

生活 MaaS 生活の足として展開する。

: WILLER MaaS について下記の様に説明があった。

このコロナ禍のなかで、現在、生活型 MaaS に重点をおいている。ワンマイル交通、小型モビリティ、コミュニティーモビリティなどを踏まえ適材適所のものを運用する。

: 前半の講義についての質問があり下記の様に返答があった。

生活 MaaS の壁についてなどの質問があり、地方や高齢者にアプリなどを用いるなどきめ細かく MaaS が作られていることなどの返答があった。

: NEXT CHALLENGE

公共交通から共有交通に向かっていることについて説明があった。

ポイント 1. マイカーから公共交通とオンデマンド交通の複合サービスへ向かっている。

ポイント 2. 行きたい時に行きたい所へ自分の思い通りに動く交通へと向かっている。

ポイント 3. 保有しないで定額料金で利用する。

令和 2 年度 京都北部地域における AI オンデマンド交通導入実証実験—生活に必要な交通サービスの確保と移動総量の増加・地域経済の活性化— (WILLER 株式会社) について地方公共団体と連携した民間事業者、MaaS の提供により解決したい地域の課題、連携する交通分野以外のサービス、本格的な導入に向けた検証項目、目標値、実験内容などの説明があった。

今回の実証実験に際してもそうであるように、商工会議所や医師会に行政と一緒に協力を求めオンデマンドで形にする、移動サービスを継続的に提供するなど行政を含めたそれぞれの役割が重要である。

本日の講義全体について質問があり下記の様に返答された。

オンデマンドを用いたコミュニティーバスの活用、交通と高齢化問題、福祉問題などについて質問があり MaaS によるまちづくりが重要であり、その為にはオープンイノベーションと行政のまちづくりに対する考え方が大事であるなどの返答があった。

以上